

第16回 医師の働き方改革に関する検討会	参考 資料3
平成31年1月11日	

医師の働き方改革に関する最近の実証研究例

1) 病院の生産性に関わる要因

医師数 50 名を超える大規模病院の生産性(患者数)に大きく関わるのは、医師数では無く看護職員数であった。医師一人当たりの看護職員数が少ないと医師の労働生産性は低く、多いと逆に高くなり、観察された範囲では看護職員数に規模の経済があることが示唆された。

(出典:「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査研究」東京大学医科学研究所 井元清哉ら)

2) タスクシフトによる医療サービスの安全性や質の担保

救急外来診療における特定行為看護師と医師の比較では、重症度などを調整しても入院期間に関して有意差は認められなかった。重症患者や複雑な患者であっても、タスクシフトによって質を保ちながら、より多くの救急患者の診療が可能になりうることが示唆された。

(出典:「救急外来診療における特定行為看護師(修士)の貢献を測定する研究」国際医療福祉大学病院 白石佳奈、志賀隆ら)